

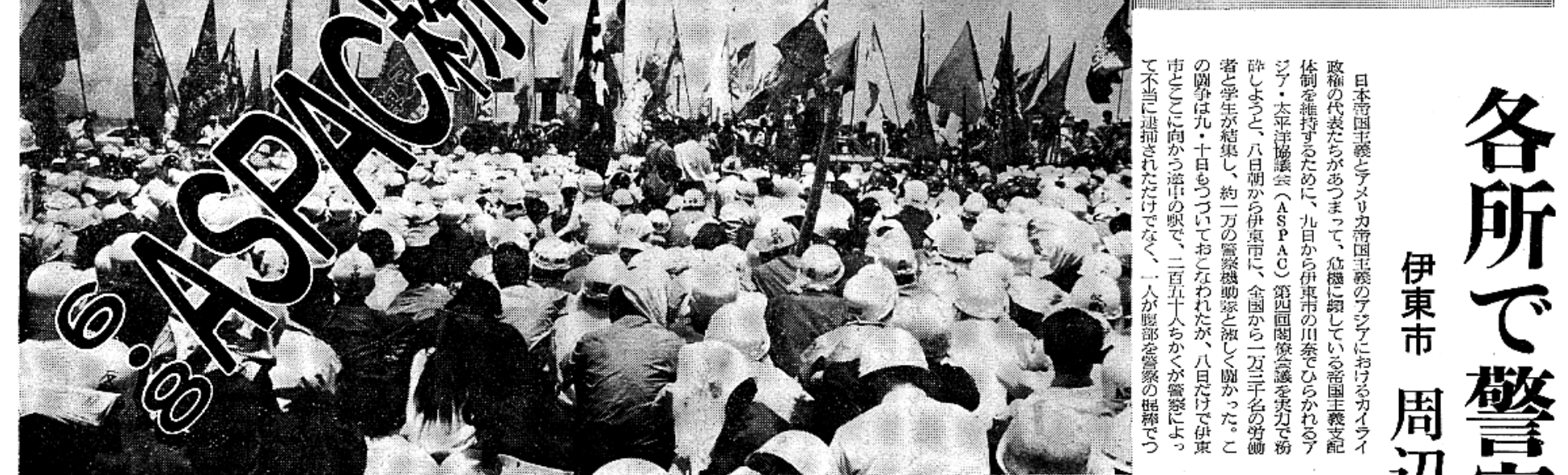
記事紹介

二面
 否定者の連帯
 5・31大教組集
 会の「事件」に
 思う
 ベネゼエラ解放
 軍指揮者会見記

三面
 日共、民青を正
 する反戦派
 大阪地評青婦部
 公開討論
 尼崎戦後史を
 抗議

四面
 西原の九全大
 会前衛指導の
 質的転換を
 本進治

新左翼 川奈に1万3千結集



各所で警察と激突 伊東市 周辺は戒厳状態に

日本帝国主義とアメリカ帝国主義のアジアにおけるカライ
 政権の代表たちがあつまつて、危機に瀕している帝国主義支配
 体制を維持するために、九日から伊東市の川奈でひらかれるア
 ジア・太平洋協議会(ASPAC)第四回閣僚会議を武力で粉
 砕しようとする、八日朝から伊東市に、全国から一万三千名の労働
 者と学生が結集し、約一万の警察機動隊と激しく闘った。こ
 の闘争は九・十日もつづいておこなわれたが、八日だけで伊東
 市でこの向かう途中の車で、二百五十人ちかくが警察によつ
 て不当に逮捕されただけでなく、一人が腹部を警察の銃撃によつ
 て重傷をおった。

ASPAC粉砕闘争におそれ
 なした警察は、伊東市内とその周
 辺を戒厳状態においた。警察は地
 元市民に対してデモを止め、ま
 りあるいはおとしをかけた。当日商
 店を閉めた。七日から市内に
 入る自動車をとめて不法な検問を
 おこない、検問を拒否する車を長
 時間わたって停車させるなどの
 いやがらせをおこなった。

当日伊東にむかう列車をとめて
 学生にリンチをほし、いままにし
 た。また伊東駅から降りた学生を
 対しておそいばかり、自ら編組
 をふりあげてなぐりつけ、学生の
 手から無罪なものを奪はうとするなど
 の不当な弾圧をおこなった。

午前十一時から伊東市の臨海公
 園でひらかれた「全国青年労働者
 ・学生総決起集会」には反戦と全
 学連のヘルメット部隊約四千名が
 参加した。集会は地元の静岡県反
 戦代表が発言し「ベトナムにおけ
 るアメリカ帝国主義の軍事的敗北
 におびえている、アジア各国の反
 戦の代表が決議表明をおこなっ
 た。

動的な軍事独裁政権は、日本帝国
 主義をたのみとしてASPACに
 結集している。彼らはアジアの民
 族解放闘争の目的に日本帝国
 主義の手をかりようとしている。
 日本帝国主義も安保体制維持を
 米帝国主義に約束し、沖縄を侵略
 基地化し再びアジア侵略にのりだ
 そうとしている。軍事同盟を強化
 しようとしているASPACを、
 われわれは実力をもって粉砕しな
 ければならない。全国の労働者
 ・学生は川奈ホテルに反戦の旗
 を高くたかかるとともに奮闘しよ
 う」とよびかけた後、六つの各府
 県反戦の代表と、二つの全学連組
 織の代表が決議表明をおこなっ
 た。

十二時すぎから全学連反戦の部
 隊は川奈ホテルにむけてデモを開
 始した。途中でこれを阻止しよう
 とする完全武装の機動隊と市内の
 各所で激突し学生たちは警官にむ
 かって石を投げ、あるいは九太を
 もって阻止線を突破しようとした
 が、警察の強硬な弾圧によってお
 しかされた。伊東市内で警察を
 急襲した学生の一隊は、石つぎで
 警官をおいちらし、逃げおくれ
 た警察のトラックを破壊した。

一時から臨海公園で反安保全国
 実行委主催の集会が、労働者、学
 生約一万三千人の参加でひらかれ
 ていたが、この集会に乱入しよう
 とした警察機動隊を、全学連・反
 戦の部隊は奮勇でむかえ、橋
 をはさんで闘った。催涙弾を乱
 射する機動隊に対して、全学連と
 反戦は石をなげ、ついでに、警察を
 立ちのかせた。

集会をおこなった一万三千の部隊は
 伊東市内の自決をきり、国鉄伊
 東駅まで「安保粉砕」「ASPAC
 ク粉砕」のスローガンを掲げ、杯
 ひびかせながら、戦線的なデモを
 展開した。三時すぎデモを終え、
 伊東駅前まで解放しようとした労働
 ・反戦・全学連の部隊は機動
 隊に激突し、一隊を逮捕するなか
 らも、一隊に連
 捕して下ささい」といって、機動
 隊は突然ガス噴霧をうちながらお
 そいかり、なぐるの暴行を
 隊のなかに引きつりこまれ、輪で
 けられ、つづいて投げだされ
 た。警察とはこんなひどいことを
 するものか」と、怒りに口びるを
 ぶらわせた。

このあまりの警察の強硬さに憤
 激した市民は、一勢に声をあわせ
 て「捕れ」「捕れ」のシュプレヒ
 コールを警察にあびせかけた。四
 時すぎ警察は市民の非難の声を
 に眼前から引上げた。

大村収容所解体へ
 六・八入管法案粉砕デモ

ASPAC粉砕の現地闘争がお
 委員会の八団体が呼びかけて
 こなれた八日後、時に、国鉄
 大村駅前「七十年安保粉砕・山
 入管法案粉砕・大村収容所解
 散」の旗を掲げ、在日朝鮮人民の監視とな
 った。大村収容所の解体をめざし
 日本各地から参加した労働者と
 学生五百人が結集してひらかれ
 た。この集会は、長崎反戦、長崎
 ・平連、佐世保平連、福岡地区
 反戦、福岡平連、鹿児島反戦、
 過報告をおこない、大村反戦、京
 京大共闘、長六六、八闘争実行
 大共闘、九大反戦学生連合、熊

もって阻止線を突破しようとした
 が、警察の強硬な弾圧によってお
 しかされた。伊東市内で警察を
 急襲した学生の一隊は、石つぎで
 警官をおいちらし、逃げおくれ
 た警察のトラックを破壊した。

一時から臨海公園で反安保全国
 実行委主催の集会が、労働者、学
 生約一万三千人の参加でひらかれ
 ていたが、この集会に乱入しよう
 とした警察機動隊を、全学連・反
 戦の部隊は奮勇でむかえ、橋
 をはさんで闘った。催涙弾を乱
 射する機動隊に対して、全学連と
 反戦は石をなげ、ついでに、警察を
 立ちのかせた。

集会をおこなった一万三千の部隊は
 伊東市内の自決をきり、国鉄伊
 東駅まで「安保粉砕」「ASPAC
 ク粉砕」のスローガンを掲げ、杯
 ひびかせながら、戦線的なデモを
 展開した。三時すぎデモを終え、
 伊東駅前まで解放しようとした労働
 ・反戦・全学連の部隊は機動
 隊に激突し、一隊を逮捕するなか
 らも、一隊に連
 捕して下ささい」といって、機動
 隊は突然ガス噴霧をうちながらお
 そいかり、なぐるの暴行を
 隊のなかに引きつりこまれ、輪で
 けられ、つづいて投げだされ
 た。警察とはこんなひどいことを
 するものか」と、怒りに口びるを
 ぶらわせた。

このあまりの警察の強硬さに憤
 激した市民は、一勢に声をあわせ
 て「捕れ」「捕れ」のシュプレヒ
 コールを警察にあびせかけた。四
 時すぎ警察は市民の非難の声を
 に眼前から引上げた。

大阪でも千五百
 九日 平連・反戦が集会

「ASPAC粉砕、沖浦茶頭武
 長崎弾劾、労働市民大阪決起
 会」は、九日夜、大阪府町公園で
 おこなわれた。

現地闘争に呼応したこの集会に
 は、約千五百名の反戦の労働者
 ・学生、高校生、市民が結集した。
 集会では、関西平連、関西地
 区反戦連絡会議、全学連反戦、北
 河反戦、毛思想青年共闘、大阪市
 大共闘などの各代表が発言と対
 決している沖浦茶頭と沖浦長
 に連帯し、その闘いに学んで、ア
 スパック、大学治立法、出入国
 管理法案粉砕の闘いを一層発展さ
 せる決意を表明した。

集会はきよりの力をきたに拡大

尼崎反戦青年委員会機関紙
炬火 No.32 69・6・4
 連絡先 尼崎市小島二二五
 グリーンハウス
 電話(四一)二七九七番
 定価 五十円(千四百五十円)

購読と読者紹介を

① 試読者の方は購読をおねがいし
 ます。② どしどし読者を紹介して下
 さい。③ 読後の感想や意見、また職
 場・学園・地域での活動や、こんご
 の活動予定など投稿して下さい。

新左翼社

大地評青年 反戦派が圧倒

孤立した日共―民青

公開の討論で誤りを暴露

九日大阪地評青年部主催の「ASPAC粉砕大阪地評青年部決起集会」は、会場は極盛況で...

五月三十一日大阪地評青年部代表の演説は、主催者側の制約努力の統一行動を呼びかけ、七...



川奈ホテルにむけて実力デモを展開する全学連

尼崎市では自ら作った「尼崎の戦後史」を、袖行氏は「この本は戦後の地方自治体行政の...

師岡氏講演のあらまし

「尼崎市史」編纂の思想原点は、尼崎市民の立場から、あるいは労働者の立場から尼崎市の歴史を見るべきである...

恥の歴史を知ろう

「尼崎戦後史発禁に抗議」の中で、とりもつた六十年、七十年までの変革と混乱時代を中心...

尼崎戦後史発禁に抗議

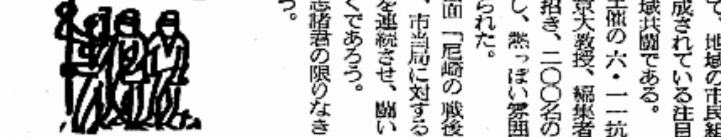
この集会后、愛媛大では大学立法紛争準備委員会が組織され、六月四日には学長と団交をおこなった...

市当局は一方的に

市当局が強制的に表現の自由を奪ふに及ぶ。尼崎市民から禁書としてあげた真の理由は、単なる「落し字」...

われわれはどう考える

われわれは、(1)市当局によるファシシ的言論の自由に対する弾圧は家永三郎を模範とし、尼崎における...



全共闘運動拡大へ

【四国支局】六月二日愛媛大におこなわれた。この集会の成功を恐れる民青は、大学に自治会があるから...

愛媛大 労学市民集会開く

【四国支局】六月二日愛媛大におこなわれた。この集会の成功を恐れる民青は、大学に自治会があるから...

尼崎反戦青年委は訴える

「尼崎の戦後史」発行のための実行委員会は、市職、教師グループ、歴史教育者団体...

わかれわれは

われわれは、(1)市当局によるファシシ的言論の自由に対する弾圧は家永三郎を模範とし、尼崎における...

われわれは

われわれは、(1)市当局によるファシシ的言論の自由に対する弾圧は家永三郎を模範とし、尼崎における...

公開の討論で大胆に

生組織、徳島へ平連、新居浜へ平連などの代表二十数人が参加し、...

四国反戦連 準備会開く

【四国支局】徳島反戦の呼び、徳島大、香川大、高知大などの学生。条件に応じて集会などに取り組む...

市当局は

市当局が強制的に表現の自由を奪ふに及ぶ。尼崎市民から禁書としてあげた真の理由は、単なる「落し字」...

われわれは

われわれは、(1)市当局によるファシシ的言論の自由に対する弾圧は家永三郎を模範とし、尼崎における...

われわれは

われわれは、(1)市当局によるファシシ的言論の自由に対する弾圧は家永三郎を模範とし、尼崎における...



九全大会の開催を熱烈に祝う北京メリヤス工場の労働者たち

九全大会は中国共産党の歴史において一つの画期的な事件であった。ただでなく、世界の共産主義運動にとっても決定的な意味をもつ大会であった。それは、それほどの大きな意味で画期的な大会といえるのである。

井岡山闘争以来、中国共産党の大衆指導は、プロレタリアのそれと異なった特殊性をもっていた。もともと、プロレタリアにたいする前衛的指導とは、闘争のなかでプロレタリアートの階級的な本質を全面的に外化させるために必要であった。しかし、この本質は一面に全面的に外化することはできない。

通常の資本主義国の場合では、プロレタリアートの階級的な本質は、まず最初、無形な闘争力

の噴出として外化する。プロレタリアートの自然発生的な闘争組織は、たとえそのように激しくたかっても、その本質からいって体制内のものではない。

したがって、プロレタリアートの階級の本質は、この組織のなかにあって、その闘争力の基礎でありながら、この組織と異質なものを、本質的にそれと対立するものとして無形な力量の形で、その外に噴出せしめなければならない。

前衛的指導がプロレタリアートの階級的な本質を「全面的に」外化させる自分の任務を達成するために、この無形の力量を二つの方向に、「一面」に有形化することから出発しなければならなかった。すなわち、支配階級の国家権力を打倒する政治闘争に、この力量を集中し、局外から闘争を推進し、これを全面的に有形化しなければならなかった。しかし、ここでは

プロレタリアートの階級的な本質は、また、外的なものとの対立のなかで外化しているだけであり、それは必然的に未分化であり、一面性である。つまり、通常の資本主義国の条件のもとでは、プロレタリアートの本質を全面的に外化させるためには、まずそれを一面的に有形化しなければならなかった。一面性が全面的な外化の道である。これがレーニン主義の路線であり、またこれが唯一の正しい道であった。

しかし、中国の場合、その半殖民地としての客観的諸条件から中国でレーニンの方式をそのまま踏襲することはできなかった。マルクス・レーニン主義の原則を一定の国の現実、実践に適合するよう「適用」せねばならぬことはいうまでもない。これに反対する人はいない、誰もそのために努力しようとする情勢もそれを強制する。しかし、これは経験主義である。原則を「適用」するとはそのような経験主義ではない。それは革命的に現実の特殊性に順応することではなく、この順応のなかに原則の新しい方式を発見することである。原則の適用とは原則の発展をなければならない。

前進させ、かくして一面性と多面性の結合を始めて可能なものとする。つまり、指導の原則を質的に飛躍させたのである。

これは指導原則の飛躍である。指導の内の矛盾がはじめて明確な形態をもつものとなった。指導は、プロレタリアートの内的矛盾の展開過程との関係で問題となる。指導が内的に未分化であるかぎり、それ以外に道はない。

しかし、指導が多面性と一面性の統一となるべきとき、指導は当然のこととして、その内部の矛盾を明確にせしめなければならない。プロレタリアートの内的矛盾の展開と指導の内的矛盾の展開とが、交互に作用し、二つの全体を形成しなければならぬ。

指導はもはや遠隔操作のものであることはできず、大衆のなかで大衆とともに一つの構造をもつことによる。指導は指導となることのできるものである。これはまた党の体質そのものの質的な変化でもある。

整風、大衆路線などの中国共産党の特徴とい

中国革命においても、毛沢東だけが最初からこの立場を堅持することができた。これが井岡山闘争のような、これまでの世界の革命運動史にみられないことのない、独自の根拠地闘争論を確立することができたのもそのためである。

根拠地闘争は、情勢からいって、たんなる闘争形態ではなく、レーニンによって開拓され、確立された指導原則を大きく飛躍させ、質、組織、理論のすべてにわたって、その存在形態に質的な変化をもたすための環であった。プロレタリアが、西欧社会主義党にたいして原則上の飛躍であったのと同じ意味で中国共産党は資本主義諸国の前衛党にたいして一つの飛躍を意味したのである。それではこの飛躍はどこにあったのであろうか。

この立場を堅持することができた。これが井岡山闘争のような、これまでの世界の革命運動史にみられないことのない、独自の根拠地闘争論を確立することができたのもそのためである。

根拠地闘争は、情勢からいって、たんなる闘争形態ではなく、レーニンによって開拓され、確立された指導原則を大きく飛躍させ、質、組織、理論のすべてにわたって、その存在形態に質的な変化をもたすための環であった。プロレタリアが、西欧社会主義党にたいして原則上の飛躍であったのと同じ意味で中国共産党は資本主義諸国の前衛党にたいして一つの飛躍を意味したのである。それではこの飛躍はどこにあったのであろうか。

が直接これに方向をあたえることはできない。新しい存在形態を外から与えるのではなく、内容の矛盾が自ら止揚されるからである。

「外へ」という最初の形態は、自ら止揚される。自身が自分の力で抽出しなければならぬ。この困難を解決する道は中国の場合、またえられていた。中国共産党に指導された過去の革命闘争の経験である。

なぜなら、中国の大衆は、外的条件に規定されたものとはいえず、また狭い枠のなかではあっても自発と創造によって、自分の存在形態の外に自分を多面化するができていたからである。この過去の闘争のなかで多面化の経験は、決して失われておらず、これは当時の困難を解決する道となることができる。これが「毛沢東路線」である。事実、幾億の大衆が思いきって立ち上ったとき、「語録」こそがその導きの星となったのである。「語録」の意義は決定的なものであった。

画期的な九全大会

前衛党指導の質的転換を

哲学者 藤本進治

この立場を堅持することができた。これが井岡山闘争のような、これまでの世界の革命運動史にみられないことのない、独自の根拠地闘争論を確立することができたのもそのためである。

根拠地闘争は、情勢からいって、たんなる闘争形態ではなく、レーニンによって開拓され、確立された指導原則を大きく飛躍させ、質、組織、理論のすべてにわたって、その存在形態に質的な変化をもたすための環であった。プロレタリアが、西欧社会主義党にたいして原則上の飛躍であったのと同じ意味で中国共産党は資本主義諸国の前衛党にたいして一つの飛躍を意味したのである。それではこの飛躍はどこにあったのであろうか。

こうして幾億の大衆が思いきり立ちあがって多面性の展開は、内に原動力をもつものとして外の敵だけでなく目に見えぬ敵とたたかい、不断に革命を進展させてやまないものとなる。

また、それは各種の領域での多面性を展開して一つの総合的な運動形態をもつことができる。研究的実践、生産的実践、革命的実践は革命的実践を軸として一つの全体的運動となることのできる。

したがって、指導もまた大きくその質を高めねばならない。レーニン主義の場合では、運動するものは党だけであった。全国的政治新聞が個別闘争を媒介するものとして運動する。

しかし、いまや中国の党は、みずから運動するものであると同時に、大衆自身の運動と結合することによって、その運動を個々の工場、農村、機関、学校で実現することができ、これは前衛党の質的飛躍であると同時に、その矛盾が多面と一面との矛盾から運動する多面と一面とにまで発展することを意味する。

九全大会後の党は、まったく新しい型の党となった。この党は、資本主義の寄生性の全面化によって、闘争と指導の質を革新しなければならぬ日本の革命運動にとっても計り知れぬ示唆をあたえるものである。

「二面より一つ」

な教師に対する不信感がどうしようもなく強まってきた。事実を事実として確認出来なかつた教師はわれわれに対して、逆に向隅の感情をいだいているかもしれない。しかし、にもかからずわれわれは、あなた方教師に対して、敵対するのではなく、現体制により受難傾向教育という形で求められてしまった、自らの生活条件として連帯を強く求めるものである。

一学園 高校における矛盾の克服の闘い

合着としての連帯を強く求めるものである。われわれは、「山崎」あくまでも闘争教師としての連帯を放棄せず、追求し、新たな闘いを構築しなければならぬ。

「二面より一つ」

な教師に対する不信感がどうしようもなく強まってきた。事実を事実として確認出来なかつた教師はわれわれに対して、逆に向隅の感情をいだいているかもしれない。しかし、にもかからずわれわれは、あなた方教師に対して、敵対するのではなく、現体制により受難傾向教育という形で求められてしまった、自らの生活条件として連帯を強く求めるものである。

一学園 高校における矛盾の克服の闘い

合着としての連帯を強く求めるものである。われわれは、「山崎」あくまでも闘争教師としての連帯を放棄せず、追求し、新たな闘いを構築しなければならぬ。

「二面より一つ」

な教師に対する不信感がどうしようもなく強まってきた。事実を事実として確認出来なかつた教師はわれわれに対して、逆に向隅の感情をいだいているかもしれない。しかし、にもかからずわれわれは、あなた方教師に対して、敵対するのではなく、現体制により受難傾向教育という形で求められてしまった、自らの生活条件として連帯を強く求めるものである。

一学園 高校における矛盾の克服の闘い

合着としての連帯を強く求めるものである。われわれは、「山崎」あくまでも闘争教師としての連帯を放棄せず、追求し、新たな闘いを構築しなければならぬ。